

令和4年7月

## ■一般文学

### 「夢見る帝国図書館」

・著：中島 京子

・出版社：文藝春秋

作家である私に、上野で偶然出会った喜和子さんから「図書館が主人公の小説を書いて・・・」と提案されます。明治時代に出来た日本で最初の国立図書館の物語を綴りながら、涙もろい大学教授や飄々たる元芸大生らと思いをたどり、喜和子さんと幻の絵本「としょかんのこじ」の謎を追います。

日本初の図書館は、本がない所から始まり、永井荷風の父の久一郎が奮闘する話、明治の文豪の樋口一葉・幸田露伴・菊池寛・森鷗外・宮沢賢治等々の作品が所々に紹介され、どんな作品だったのか読みたくなります。ひいては、物語を読み進めながら他の物語や作品に触れる感触が不思議です。

(対象 一般)

## ■一般書

### 「図鑑を見ても名前がわからないのはなぜか？」

・著：須黒 達巳

・出版社：ペレ出版

花や虫の名前を知りたいと図鑑を開いたことがありますか？見知らぬそれは、図鑑のどこから探すのか、たくさんの似た種の中のどれなのか。なんとなくページをめくるだけでたどり着くのは難しい。対象が何であるかを判別し、確定させる作業を「同定」といいますが、「特徴を正しく捉える目」が必要です。

この本では、なぜうまく同定できないのか、どのように「目」をつくり、同定できるようになるのか、様々な例、実際に同定をしていく様子を丁寧にわかりやすく書かれています。

「目ができる」を体感してワクワクしたり、同定に至るまでの道のりの長さにクラクラしたりしますが、著者が同定を愛して楽しむ気持ちを知るうちに、自分でも図鑑を手にとり同定に挑戦してみたいくなります。

(対象 一般)

## ■児童書

### 「ぼくのわたしの著作権ずかん」

・監修：森田 盛行

・出版社：ほるぷ出版

私たちにとって著作権は、とても身近なものです。なぜ身近なのでしょう？この本に登場するふしぎな犬「ちょさく犬(けん)」が、オールカラーの漫画と図解でわかりやすく解説してくれます。私たちが住んでいるいつもの町から、著作権が消えたらどうになってしまうの？著作権を広める人の権利って？学校編、インターネット編、社会編をクイズ形式で出題し、世代問わず楽しく学ぶことができます。

著作物であふれている暮らしの中で、この場合の著作権は？と不思議に思ったときは、この本を役立ててみてください。

(対象 小学高学年から)

## ■絵本

### 「どうしてパパとけっこんしたの？ どうぶつたちそれぞれのこたえ」

・作：桃戸 栗子

・出版社：福音館書店

「どうしてパパとけっこんしたの？」

どうぶつの子どもたちがママに聞いています。ケンカが強いから？子どもたちにやさしいから？家を作るのが上手だから？それとも、やっぱりかっこいいから？どうぶつによって答えはさまざま。

この絵本では、キリン、ゴリラ、ダチョウ、タヌキ、ゾウ、フンコロガシ、ライオン、カピバラ、ペンギンのママたちがパパをえらんだ理由を紹介しています。

さて、ほかの動物たちは、どんな理由でパートナーをえらんでいるのでしょうか。例えば、鳥の世界では、羽がハデできれいなオスのクジャクや、尾の長いオスのツバメがモテています。歌やダンスが上手なオスがモテることもあります。動物たちがどんな理由でモテるのか気になってきたら、図書館で調べてみましょう。

(対象 幼児から)